

第6学年 国語科の実践

1 単元名 物語の世界を読み合おう「きつねの窓」（全8時間 本時7時間目）

2 単元目標

- | | |
|----|---|
| 関心 | ・「ぼく」が現実の世界と幻想の世界を往還する物語の語り方に着目して読み合おうとする。 |
| 読む | ・「ぼく」と「きつね」の相互関係をとらえながら、作品を読むことができる。
・語り手である主人公の視点で物語を読み深めたり、別の人物の視点で読み、物語の見え方の違いを比べながら、自分の読みを作ったりすることができる。
・ほかの作品の読書経験などをもとに、自他の作った読みについて話し合い、自分の読みを深めることができる。 |
| 話聞 | ・作品の読みについて、発言者の意図をとらえながら聞き合うことができる。 |
| 伝国 | ・比喩表現とその効果に気付くことができる。 |

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

- | |
|--|
| 研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」
・仲間に共感しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿 |
|--|

<聴く・話すについての指導>

学習活動をはじめ、学校生活の様々な場面で、「聴く・話す」を意識した活動を取り入れている。まずは自分なりの考えをもつことの大切さを伝え続けるとともに、考える時間を確保することを心がけてきた。そして、自分の出番を考え質問したり、意見を言ったりすることができる学び合いにしていきたいと考え、指導を重ねている。話し手として、どの言葉を使えばよいのか、どのような順序立てで相手に伝えればよいのか常に考えながら話ができるようにしている。また、教師の発問や友達の考えに対して黙って聴いているだけではなく、自分の考えと比べながら聴いたり、わからないことを聴き返したり、思ったことを伝えたりするよう促し、「聴く」ことの大切さを指導してきた。友達の考えに対するあいづちやよいつぶやきを取り上げたり褒めたりすることで、少しずつではあるが自分の思いをつぶやくことができる子どもが増えてきた。相手意識をもった「聴く・話す」活動にしていくなかで、聴くことのよさを味わうとともに、自分の話を聴いてもらえる心地よさを実感できるようにしている。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

関わり合い・ひびき合いに関しては、わからないことをペアやグループで教え合ったり、友達の意見がわかりにくかったときには言い換えさせたりすることで、関わり合いが見られるようになってきた。友達の考えを大切に、ノートに記す子どもも増えてきた。しかし、全体での話し合いでは、話し手の相手意識や聞き手の受容的・共感的姿勢にまだまだ課題がある。相手意識をもって話したり友達の意見につなげて考えたりする場面が少しずつではあるが見られるようになってきたが、ひびき合いには至っていないのが現状である。代表委員会の議題、クラスイベント、総合的な学習の時間の活動内容などについては、活発な話し合いがなされることが多い。自分の生活に関係する事柄や、興味がある話題、全員の考えが反映されなければいけないと子どもた

ちが考えるものに対しては、意欲的に話し合い、相手の話を聞き自分の考えを深めることができる。学習の場面においては、反対・賛成などの意見が分かれるような問題や、正解が誰も分からないような問題などを扱った学習場面に対して、意欲的に相手の話を聞こうとし、自分の考えを深めようとすることができ、普段は控えめな子の参加意欲も高い。なるべくみんなが参加できるような問題を学習場面で設定し、話し合うことで自分の考えや認識・感覚を構築することにつながるよう努力しているところである。

4 単元と指導

<単元について>

本教材文の「きつねの窓」は、日常の世界から不思議の世界へ行き、また日常の世界へ戻ってくるというファンタジーの特徴をもった作品である。さらに、登場人物の「ぼく」のきつねに対する心情の変化が場面の優れた叙述によって描かれている。指導にあたっては、小学校指導要領国語第5及び第6学年の指導事項を受け、「C読むこと」の「内容(1)エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」と、「B書くこと」「内容(1)イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」を意識する。「ぼく」ときつねの相互関係や心情の描写をもとにして、学習課題に対する自分の考えをまとめさせ、話し合いをもとにした児童同士の学び合いの中で、考えを深めさせたい。「きつねの窓」は、日常と非日常で構成される世界の中で、「入口」と「出口」がはっきりと書かれた典型的なファンタジー形式の作品である。また、「色」が効果的に使われ、青と白の織りなす美しい景色が幻想的に描かれている。さらに、非日常世界への案内役としてきつねが登場したり、主人公「ぼく」が語り手となって一人称で書かれていたりすることも作品の大きな特徴である。まずは、このような物語の書かれ方や構成、表現に着目させ、読書へ広げるための視点とさせていきたい。また、不思議な体験を通して変化していく主人公「ぼく」の気持ちや「窓」と「ぼく」との関係を読み取っていくことも、作品の特徴をとらえることにつながると考える。

<指導について>

物語の「はじめ」と「終わり」で主人公の気持ちがどのように変化しているのかをもとに、初発の段階で主題を考えることをきっかけに、物語を読み深めていくことにつなげていく。「きつねの窓」の大きな特徴である、主人公の「ぼく」が語り手となって、一人称で書かれていることから、まずは「ぼく」の変容と「窓」に映し出されるものとの関わりを読んでいけるようにする。また、主人公の変容に大きな関わりを示す存在として「子ぎつね」が登場していることに気づけるようにし、語り手の「ぼく」とは別の視点で、子ぎつねの心情を想像していくことで、読みを深めることにつなげていきたい。

本単元で児童が解決したい問題となるのは、「きつねの窓」の主題はなんだろうである。前期に学習した「遠眼鏡の海」では、物語の一つ一つの要素や物語全体が象徴する意味を読み、互いの読みや考えを交流し合って主題を捉える経験をしている。物語の学習をするにあたって、作品における「主題」について興味を持つことは子ども達にとって自然であり、解決したい問題となっていくことが予想できる。初発で考えた自分自身の主題のとらえが、物語を詳しく読んでいくことにより、深まっていけるようにしたい。そして物語の「主題」についての考えを友達と交流し、共通点や相違点を比較することを通して、物語の読みの多様な価値に気づく姿を本時における「ひびき合い」の姿としたい。そのために、根拠をはっきりさせた上で自分の考えをしっかりと持ち、交流する際には誰と考えを伝え合いたいのか目的を意識できるようにしていきたい。

関心
読む

- ・「ぼく」が現実の世界と幻想の世界を往還する物語の語り方に着目して読み合おうとする。
- ・「ぼく」と「きつね」の相互関係をとらえながら、作品を読むことができる。
- ・語り手である主人公の視点で物語を読み深めたり、別の人物の視点で読み、物語の見え方の違いを比べながら、自分の読みを作ったりすることができる。
- ・ほかの作品の読書経験などをもとに、自他の作った読みについて話し合い、自分の読みを深めることができる。

話聞
伝国

- ・作品の読みについて、発言者の意図をとらえながら聞き合うことができる。
- ・比喩表現とその効果に気付くことができる。

- ・ファンタジーの特性(入口と出口)や、色(青と白)、比喩表現などを効果的に用いていることを押さえる

「遠眼鏡の海」6年上
物語の一つ一つの要素や物語全体が象徴する意味を読み、互いの読みや考えを交流し合って主題をとらえる。

「きつねの窓」は、どんな物語だろう ①②

〔題名と挿絵から〕

- ・ききょう畑の不思議な世界かな
- ・窓から何かが見えるのかな

〔全文を読んで〕

- ・「ぼく」が主人公
- ・きつねが出てくる
- ・どんなあらすじになるかな

〔あらすじ〕だが、どんなできごとによって、どうなる話

- ・山で道に迷ったぼくが、ききょう畑に迷い込み、きつねに出会うことで窓を手に入れるけれど、手を洗って窓を失う話
- ・独りぼっちのぼくが、きつねからもらった窓を失うことによって、指で窓を作って見ることがくせになる話
- ・ぼくが、ききょう畑できつねと出会い、不思議な窓を手に入れる話

「きつねの窓」の主題はなんだろう

〔主題・作品から伝わるメッセージ〕

- ・誰にでも忘れられない大切な過去がある
- ・思い出にいつまでもひたってはいけいけない

主題に迫るために、物語を詳しく読んでいこう

ぼく

「ぼく」に注目して読もう③④

〔主人公の「ぼく」について〕

- ・暗い感じ
- ・山奥で暮らしている
- ・猟をしている
- ・一人で暮らしている寂しい人
- ・今よりも少し昔の時代の人

【関心】「ぼく」が現実の世界と幻想の世界を往還する物語の語り方に着目して読み合おうとしている。

・窓に映ったものの共通点に着目させる

きつね

【読む】語り手である主人公の視点で物語を読み深めたり、別の人物の視点で読み、物語の見え方の違いを比べながら、自分の読みを作ったりしている。

【読む】「ぼく」と「きつね」の相互関係をとらえながら、作品を読んでいる。

〔語り手である「ぼく」の心情の移り変わりについて〕

- ・自分の体験を語っている
- ・だまされたふりをしていた「ぼく」の気持ちがかわる

〔「ぼく」にとっての窓について〕

- ・窓に一人の少女や焼けた家や庭が映る
- ・窓に映ったものは、会うことができないもの

・叙述をもとに、「ぼく」にとっての「窓」を考え、主題に迫る考えにつなげる

「きつね」に注目して読もう ⑤

- ・「ぼく」を誘うように登場している
- ・「ぼく」に思いが伝わって、喜んでいる
- ・「ぼく」に動物を殺すことをやめてほしい

語り手ではない「きつね」に視点を変えたらどうだろう

詳しく読んだ上で、改めて主題について考えよう

「きつねの窓」の主題はなんだろう⑥ ⑦本時

- ・今はないものでも、心の中の思い出としてしっかりしていれば宝物になり寂しくない
- ・どんな命も大切であり、なくしてみて初めてその温かさが考えられる

友達はどうな主題を考えたのかな

〔「きつねの窓」の主題を伝え合おう〕

- ・自分と同じ感想をもっている
- ・友達の考えに、なるほどと思った
- 〔「きつねの窓」の学習を通して感じたこと〕

読書を楽しもう⑧

- ・ファンタジー作品
- ・1人称の視点の作品
- ・色の描写のある作品
- ・作者の他作品

・グループごとの交流のあと、クラス全体でも共有できるようにする

「きつねの窓」に関連した本を読んでみたい

読書をもっと楽しみたい

【話聞】作品の読みについて、発言者の意図をとらえながら聞き合っている。

【読む】自他の作った読みについて話し合い、自分の読みを深めている。

【関心】本を読みことの意義について考えながら読み、読書生活を豊かにしようとしている。

6 本時について

(1) 本時目標 「きつねの窓」の主題の交流を通して、友達の考えを自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、「きつねの窓」の学習を通して感じたことや思ったことについて考えることができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点・【評価】
「きつねの窓」の主題はなんだろう 友達と考えを交流しよう 「自分の考えと比べよう」 ・共通点 ・相違点 ⇐ 主題について、友達と交流した感想 主題を整理しよう 今はないものでも、心の中の思い出としてしっかりとしていれば、宝物になり寂しくない どんな命も大切であり、なくして初めて初めてその温かさが考えられる ☆安房直子さんのことは 主題を一つにしぼることはできません。この作品を読んだことをきっかけに、いろいろなことを感じとり、語り合ってみましょう。 「きつねの窓」の学習を通して 感想 本時における「ひびき合い」の姿 物語の「主題」についての考えを友達と交流し、共通点や相違点を比較することを通して、物語の読みの多様な価値に気づく姿	●本時の学習のめあてを確認する。 ●根拠をはっきりさせて、自分の考えをもてるようにする。 ●友達と考えを交流する際に、「自分と比べてどうか」、共通点や相違点を意識できるようにする。 ●互いの考えた主題を記入した座席表を準備し、共通点や相違点などから、考えを交流したい友達を決めることもできるようにする。(事前に配付) ●うまく交流できない児童がいたら、関われるように間に入り、支援する。 ●主題について、友達との交流を通して感じたことについて考えることができるようにする。 ●主題の仲間ごとに分かれ、各グループの考えをまとめ、発表し、全体に紹介できるようにする。 ●それまで学習したことに加えて、安房直子さんの主題に対する考えを知り、改めて物語から自分自身が感じたことや思ったことについて考えることができるようにする。 ◇友達の考えを自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、「きつねの窓」の学習を通して感じたことや思ったことについて考えることができたか。【読む】

7 実践を終えて

物語の学習をするにあたり、それまでの学習の経験から、作品における「主題」について自然と興味を持つことができた。初発の段階で考えた主題をきっかけに、物語を読み進めていった。語り手となっている主人公の「ぼく」を中心に心情の変容と「窓」に映し出されるものとの関わりを読み、また、対人物としての「子ぎつね」に着目し、語り手の「ぼく」とは別の視点からも物語を読んでいくことにより、改めて主題を考えていくことにつながっていった。

本時では、「きつねの窓」の主題を交流する際に、互いの考えた主題を記入した座席表を児童に事前に配付し、自分の考えた主題との共通点や相違点などから、考えを交流したい友達を選べるようにした。全員が交流することができたと共に、主題を考えた理由を交流することで、同じ主題でも理由が違うことに気づいたり、自分とは違う主題について考えたりすることにつながった。また、交流し合う姿から、書かれている以上に児童一人ひとりが自分なりの主題をしっかりと持っていることが分かった。

○成果と課題

<成果>

- ・それまでの学習をもとに、一人ひとりが自分なりの考えをしっかりともち、主題について積極的に交流する姿が見られた。
- ・座席表を使った交流をしたことにより、互いの考えの共通点や相違点について意識して友達と関わることもできた。また、理由を伝え合うことで、同じ主題を考えていてもその根拠が違うなど、物語の読みの多様さに気づくことができた。

<課題>

- ・児童の読みは深まったと言えるが、この物語の主題は比較的分かりやすいものであったので、解決したくなるような学習問題のつかませ方が必要であった。本文の言葉に着目するなど、一人ひとりがより自分の考えにこだわりをもてるような、読み込む時間を十分に確保できるようにしていきたい。
- ・本時後半では、主題をグループで整理するのではなく、全体での交流の時間をとることにより、主題の多様な価値について、より考えを深めることにつながったのだと考える。また、作者の言葉が本時のはじめにあると、活動の流れがより児童の思考の流れに沿ったものとなった。児童の思考の流れが途切れることなく単元のねらいにせまっていけるよう、計画を十分に練っていきたい。